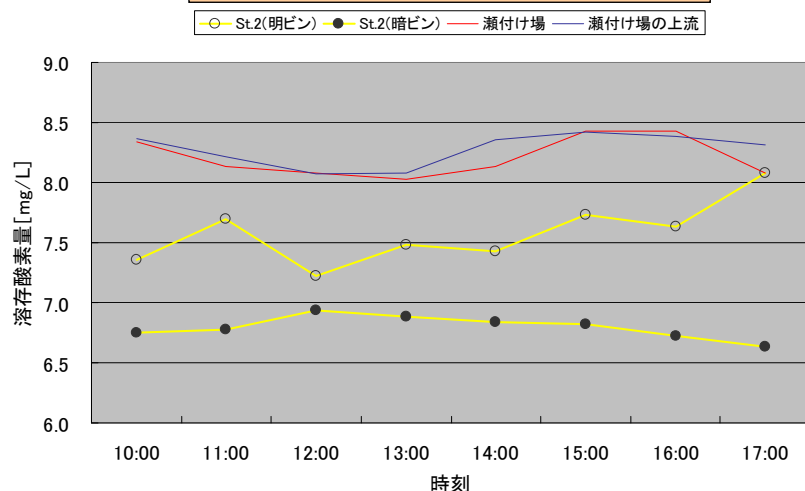


2) 下代瀬採餌場産卵場環境

【参考資料 I -138～I -142 参照】

評価項目	視点	今年度の調査結果概要
出水前後や工事実施前後の変化状況	出水や荒瀬ダム撤去関連工事(水位低下装置等)の影響把握	- 第1回の調査を10月に実施し、アユの採餌場環境(付着藻類の一次生産力[明暗ビン法])、及び産卵場環境(河床の安定度[シノによる貫入度試験]、溶存酸素量)の現状を把握した。 - 出水後や水位低下装置設置後のデータ蓄積後に評価する。

■明暗ビン法現地実験結果：St.2 下代瀬(瀬付き場)



■貫入度試験結果



■DO 調査結果



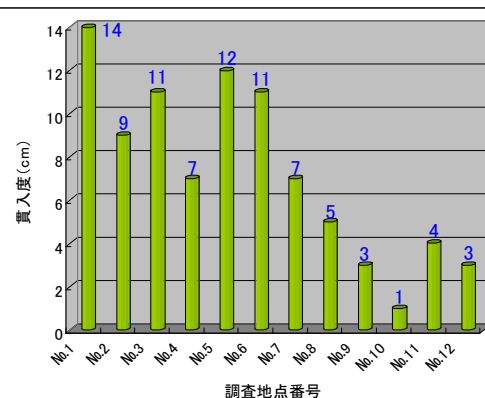
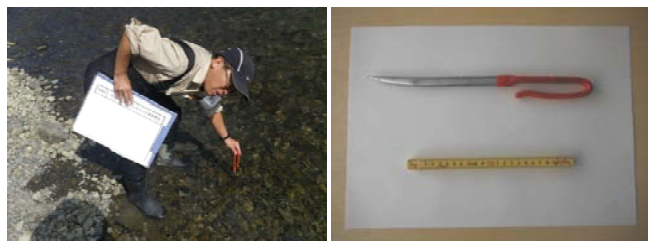
【明暗ビン法現地実験】



【DO 調査】

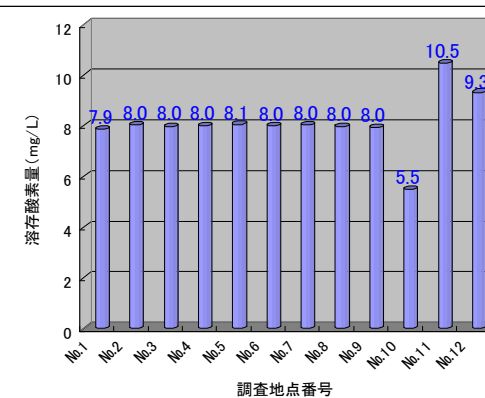


【貫入度試験】



■アユの産卵場調査(浮き石の状態調査)

重点的な調査区域では平均値 10.7cm(範囲は7~14cm)、非重点的な調査区域では平均値 3.8cm(範囲は1~7cm)であり、重点的な調査区域でより高い値を示していた。



■アユの産卵場調査(溶存酸素量調査)

右岸側の水域では、重点的な調査区域の平均値は 8.00mg/L、その上流側の非重点的な調査区域の平均値は 7.99mg/L であり、両者の差は殆どなかった。左岸側のワンド内では、5.49~10.49mg/L で、地点により大きく変動していた。中州内の2箇所では、5.10mg/L 及び 6.74mg/L であり、右岸側の水域よりも低い値であった。